

令和6年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22082	事業名	個の学び支援事業(中学校)		評価分類	A1		
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()							
	施策体系	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実			予算科目	会計	01:一般会計	
		基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実				款	10:教育費	
		施策の方向	05:一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進				項	03:中学校費	
		重点プロジェクト	04:「未来へのピラ」プロジェクト				目	01:学校管理費	
事業期間	H 20 年度 ~ R - 年度		主な根拠法令等		-				
担当部署		部 教育委員会事務局 課 学校教育課 学事教職員G							

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	特別な支援を必要とする生徒が増加しており、別室での個別対応など、支援の内容も多様化している中、生徒の実態把握を丁寧に行い、個々の状況に応じた適切な支援を実施する必要がある。	中学校の特別支援学級に在籍する生徒および通常学級に在籍し特別な支援を必要とする生徒	学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な支援を行うことで、特別な支援を必要とする生徒が、安心安全に、かつ自立した学校生活を送ることができている。	各学校の状況に応じて、介助員、学習生活相談員、看護師、校内教育支援センター支援員を配置する。

年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
事業計画		○介助員の配置 ○学習生活相談員の配置		○介助員の配置 ○学習生活相談員の配置		○介助員の配置 ○学習生活相談員の配置 ○看護師の配置		○介助員の配置 ○校内教育支援センター支援員の配置	
活動実績 (計画通り実施できたか)		特別な支援を必要とする生徒が安心安全に学校生活を送ることができるよう、介助員及び学習生活相談員を適切に配置した。 ○介助員:3中学校 8人配置 ○学習生活相談員:3中学校 3人配置		特別に支援を必要とする生徒が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、介助員及び学習生活相談員を適切に配置した。 ○介助員:3中学校 7人配置 ○学習生活相談員:3中学校 3人配置		特別な支援を必要とする生徒が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、介助員及び学習生活相談員を適切に配置した。 ○介助員:2中学校 6人配置 ○学習生活相談員:3中学校 4人配置			
③ 事業の実施状況 (P・D)	計画額	事業費	17,800千円	17,600千円	19,400千円	17,600千円	23,000千円	18,489千円	17,500千円
		国・県支出金		0千円		0千円	650千円	0千円	
		地方債		0千円		0千円		0千円	
		その他		0千円		0千円		0千円	
		一般財源	17,800千円	17,600千円	19,400千円	17,600千円	22,350千円	18,489千円	17,500千円
決算額	事業費		15,753千円		16,976千円		18,166千円		
	国・県支出金		0千円		0千円		0千円		
	地方債		0千円		0千円		0千円		
	その他		0千円		0千円		0千円		
	一般財源		15,753千円		16,976千円		18,166千円		
①期間内計画額(R4-7)		77,700千円		②期間外計画額(R8-)		-		①+②総計画額 77,700千円	

(令和6年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	18,489千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	介助員の配置率	成果	%	計画値	100	100	100	100
				実績値	100	100	100	100
支援情報の引継ぎの割合	個別の指導計画等を作成し引継ぎができていない生徒の割合	成果	%	計画値	100	100	100	100
				実績値	100	100	100	100
学校生活の満足度	学校満足度調査における支援を必要とする生徒の保護者の満足度	成果	%	計画値	95	95	95	95
				実績値	94	90	89	95

判定	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
⑤ 成果 (C)	<p>A</p> <p>介助員の配置により、特別支援学級に在籍する生徒の学習面・生活面の支援を行うことができた。また、特別支援学級以外の特別な支援を必要とする生徒に対しても、学習生活相談員による支援を行うことができた。学校満足度調査では、保護者の約90%が満足と回答しており、生徒が安心して安全に学校生活を送ることにつながった。また、特別支援学級に在籍する中学校3年生の生徒については、それぞれの進路につなげることができた。</p>
十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
<p>(再掲)</p> <p>中学校の特別支援学級に在籍する生徒および通常学級に在籍し特別な支援を必要とする生徒</p>	<p>学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な支援を行うことで、特別な支援を必要とする生徒が、安心安全に、かつ自立した学校生活を送ることができている。</p>

事業の達成状況等を踏まえた課題事項
⑥ 課題 (C)
<p>多様な支援を必要とする生徒が増加する中、特別支援学級に在籍する生徒だけでなく、校内教育支援センターに通う生徒への支援も含め、多様な学びと支援に対応できる体制の構築が求められる。途切れない支援を行うために、小中の9年間を見通した支援の在り方を考える必要がある。</p>

方向性	
⑦ 事業の展開 (A)	
<p>継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する</p>	
改善・見直し内容	
<p>令和7年度で対応する(した)もの</p> <p>教育支援委員会において、個々の生徒の実態を把握し、必要な支援を検討した上で、継続的な支援を実施する。また、多様な学びに対応するための人材を確保し、特別支援学級に在籍する生徒だけでなく、校内教育支援センターに通う生徒を含め、幅広い支援を行う。</p>	<p>令和8年度以降で対応するもの</p> <p>介助員、校内教育支援センター支援員、看護師の人材確保に努め、支援体制の充実を図る。特別支援学級に在籍する生徒だけでなく不登校や校内教育支援センター支援員に通う生徒を含め、9年間を見通した目標設定を行い、多様な学びに対応した支援を行う。</p>

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
⑧ 履歴				
成果判定	A	A	A	
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(現状維持)	

1次評価者	教育委員会事務局 学校教育課 学事教職員GL 加藤 剛
最終評価者	教育委員会事務局 学校教育課長 武居 政敏